

1. 研究課題名

区西南部における脳卒中S選定システムの妥当性検証（多施設共同後方視的研究）

2. 試料・情報

(1) 利用目的

本研究は、救急現場における「脳卒中S」選定システムの臨床的妥当性を解明することを目的とする。プレホスピタル・トリアージの精度が、病院到着後の血流再開までの時間に与える影響を多角的に分析する。以下の3点を中核に据える。

1. 救急隊による「脳卒中S」選定の診断精度（感度・特異度）の検証

救急隊がS選定アルゴリズムを用いて抽出した症例のうち、最終診断において機械的血栓回収療法の適応となる「主幹動脈閉塞」であった割合、および非該当例における「主幹動脈閉塞」混入率（偽陰性率）を明らかにする。

2. 治療適応判断と実施治療（rt-PA、機械的血栓回収療法）の乖離分析

S施設へ搬送された症例の治療プロセスを追跡し、時間的限界等を現場選定の妥当性と併せて分析する。

3. 選定漏れ（偽陰性）症例の特定

本来機械的血栓回収療法適応であったがS選定されなかった症例の流入経路（直接来院、脳卒中A施設からの二次搬送、他目的救急等）を特定し、地域連携における損失を定量化する。

(2) 利用項目、提供方法

本研究は、2025年3月から2026年3月の間に、機械的血栓回収療法を受けられた方の診療記録を利用して行う。利用を開始するのは、本研究が承認された日以降とする。

本研究は多機関共同研究（研究代表者：釘崎愛理 所属：日本赤十字社医療センター脳神経外科）であり、当センターと対象施設（区西南部医療圏における脳卒中急性期医療を担う主要施設）から提供された診療記録から得られた情報を利用する。その際、個人を識別できる情報は削除する。

(3) 利用する者の範囲

日本赤十字社医療センター 脳神経外科 釘崎愛理（研究責任者）、および本共同研究に参加している区西南部医療圏における脳卒中急性期医療を担う主要施設の下記医師

東邦大学医療センター大橋病院 林 盛人 脳神経外科・講師

東京共済病院 渡邊 玲 脳神経外科・部長

東京医療センター 林 拓郎 脳神経外科・部長

三宿病院 小野 健一郎 脳卒中センター・部長
東京都立広尾病院 吉田 賢作 脳神経外科・部長
関東中央病院 清本 政 脳神経外科・医長

(4) 管理責任を有する者の名称

日本赤十字社医療センター

3. 参加を希望されない場合等

本研究への参加を希望されない場合や本研究参加についてのご相談がある場合は、以下へご連絡ください。本研究への参加を希望されない場合でも、不利益を被ることはありません。

4. 問い合わせ先

日本赤十字社医療センター
〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22
TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604
担当：脳神経外科 釘崎愛理 入江是明